

日本英語教育史学会 会報

307

2022 年 2 月 1 日

HiSELT *Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
 県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
 tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
 e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)

ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873

ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第286回研究例会報告

2022 (令和 4) 年 1 月 8 日 (土), 第 286 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 18 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに, 若宥保彦氏 (秋田大学) による「若林俊輔の英語教育論: 終期 (東京外国語大学退官後) の特徴」の発表が行われました。続いて鈴木聡氏 (鳥羽高専) による「臨時教員養成所卒業生の国家としての評価—他機関卒業生と比較して」の発表が行われました。司会は榎本剛士氏 (大阪大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は若宥氏, ②は鈴木氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。



◆①これまで続けてこられた若林俊輔研究がいよいよ終期に至り, その期間における若林の業績を収集, 分類されたご発表を伺いましたが, もう少し内容分析に踏み込んでいただきたかったとの感想をいただきました。ご発表の最後にこの期に新しく出された主張をリストアップしていただきましたが, ほかに, 第 3 期までにおける若林の主張と同じ範疇に含まれるもので, その内容に変化・変容が見られるものがあるのか, ないのか等々, 論文化されるにあたってはぜひとも明らかにさせていただきたく思います。あわせて, 本日のご発表分には含まれていませんでしたが, 若林英語教育論の総評は別にご発表をお考えなのかどうか気がなりました。ぜひお聴きしたいところですので, 今回のご発表をまとめて投稿される際にこれを含んでいただくか, あるいは, 別にご発表の機会を持たれるか, ご検討ください。 (Dragon)

◆①若林先生が「終期」にどのような活躍をなされたのか知ることができました。一人の人物について考えるにあたり, 様々な媒体から分析されていたのが印象に残りました。本日は貴重なお話ありがとうございました。 (SU 宥翔)

◆①若林俊輔先生が英語一辺倒を批判する際の視点をその場で具体的にお示し頂き, ありがとうございます。今で言う語用論, 社会言語学, 言語人類学との親和性がかかなり高い視点であったことが, 個人的に大変興味深いと思いました。大きなご研究を着々と形にしておられ, 続きを伺うのが楽しみです。 (Tak)

◆②一般にはなかなか踏み込もうとしない領域・観点の資料を分析されて, 不明な点の多い臨時教員養成所に係る史実の解明に取り組み, 感服いたしました。ただ, 臨教卒業生の個人レベルでの

事例研究とあわせ、これを総体として見たときにはどうであったかという視点からお調べいただくことも期待しております。個人レベルの事例研究ということであると、例えば、日本英学史学会の第 2 代会長を務められた吉武好孝先生は、第二次の第二臨教（広島）を卒業されてのち東北帝大に進まれ、アメリカ文学を専攻されて、英学史の方面では『翻訳文学発達史』（1943）、『明治・大正の翻訳史』（1959）、『翻訳事始』（1967）などを著されています。なお、質疑中にご紹介した磯部弥一郎の臨教批判は『中外英字新聞』（第 14 巻第 2 号、1907）の「語叱府」欄に「○ 臨時教員養成所英語科の卒業生が中學教員としての實地成績は何れの中學校を聞き合せても余り評判が宜しくないやうだ。中には二三の例外もあるが一般に言へば學力不十分にて生徒に対する信用薄しとて中學校に依りては臨時教員養成所の卒業生は一切採用せぬことに内々極めて居る學校もある由 ● 文部省が中學校の英語を改善せんとして有資格教員を取るの方針は固より異論はないが唯だ形式上の資格さへあれば宜いと云ふので實際實力のない平凡教員を採用するのは自家撞着と云はねばならぬ。故に記者は言はん。中學校の英語を益々下劣ならしむるの責は却て之を改善せんと熱中する文部省其者に歸せざる可らずと」（p. 58）とあります。第一次臨教に係るものですが、ご参考までに。（Dragon）

◆②臨時教員養成所のコンプレックスのどこまでが事実であるのか、多くの人物の経歴から導き出されていて印象に残りました。比較を通し、当時の様々な様子が導かれることが面白く感じました。本日は貴重なお話をありがとうございました。（SU 宥翔）

◆②鈴木先生の目に「英語教育史」はどのように映っているのだろうか、と感じながら拝聴しました。英語教育は制度とそこに埋め込まれたヒエラルキーの中にある、という基本的な社会的事実を真正面から突きつけられるような、刺激的な内容でした。資料の扱いや収集方法も、勉強になりました。（Tak）

◆③英語に関する貴重な話を聞くことができました。本日の内容は学生で未熟者の私にはかなり難しく感じましたが、専門になさっている先生方の発表の資料や方法を自分なりにわずかでも取り入れることができれば幸いです。本日はありがとうございました。（SU 宥翔）

< 発表を終えて >

若有 保彦（秋田大学准教授）

今回は若林先生の終期（東京外国語大学退官後）の論考を分類した結果を報告させていただきましたが、資料収集の作業で後期と同様に苦労しました。後期よりも数自体は少ないのですが、終期においても先生は英語教育雑誌や英語雑誌以外にも記事を書いていたからです。また例会がオンラインで開催されるようになり、以前よりも参加者の層が幅広くなってきたことから、最初の方に若林先生に関する紹介をこれまでより丁寧に行いました。しかし、紹介に多くの時間を使うことになってしまい、肝心の分析結果に関する補足があまりできない状態で終了時間を迎えてしまいました。そのことを反省するとともに、改めて発表の難しさを感じた次第です。

今回の発表準備の過程で若林先生の論考の収集は大体終わることができました。今後は収集した資料を活用し、テーマ毎の詳細な分析に取り組んでいきたいと思っております。同時に、質疑応答でいただいたアドバイスに従い、若林先生と同時代に活躍した先生方（多くが 80 代や 90 代になってきているようです）への聞き取り調査にもチャレンジしたいと考えています。若林先生に関する研究はこれからも地道に続けていくつもりですので、今後ともご助言よろしくお願いたします。

< 発表を終えて >

鈴木 聡 (鳥羽商船高等専門学校教授)

先日は初めてのオンライン発表ということで、音声がかまく届かないこともありご迷惑をおかけしました。

今回の内容は、一般に知られている臨時教員養成所のイメージを覆せればと思って発表しましたが、上手に伝えられたかという自信はありません。ですが、著名な研究者だけでなく、無名の教師も含め従来とは異なる別の側面から人物像を見えるという点に興味を持っていただけたら、これに勝る喜びはありません。なお、今回の調査における著書や論文数は田邊先生からご指摘を受けたとおり、本来なら詳細に分類すべきでしたが、私の怠惰のためにそうになっていませんでした。今後はこの点はより詳細に分類したいと持っております。また、今回の臨時教員養成所に関しては第二次臨教、中でも東京高等師範学校附設東京第一臨時教員養成所が主体となっていますが、竹中先生からもご指摘のあったように、やはり第一次臨教との違いについても調査していく必要があると考えています。また、可能であれば東京第一臨教以外の臨教についても調査していくつもりです。

最後に、私の話下手のせいで、規定よりも終了時間が 10 分延長してしまい申し訳ございませんでした。次回は今回の内容を踏まえ、さらに詳細にまとめたものを発表できるように精進していきたいと思っております。この度は貴重な機会を頂きありがとうございます。

>> 事務局より

>> 理事会を開催

12 月 19 日 (日) 17 時よりオンラインで 2021 年度第 2 回 (臨時) 理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

(1) 第 38 回全国大会 (大阪大会) について

第 38 回全国大会を本年 5 月にオンラインで開催することを決め、その概要を検討しました。詳細は 4~5 ページをご覧ください。

(2) 紀要第 37 号の誌面構成について

編集委員長より報告を受け、誌面構成を確定しました。

(3) その他

紀要投稿用のテンプレートの必要性について、理事会において検討することとしました。また、紀要の判型を変更すべきかについても、第 40 号の刊行時期をめどに結論を出すこととしました。

(文責：事務局長)

)) 会費納入について (お礼とお願い)

会費の納入にご協力くださりありがとうございます。会計年度は 4 月より翌年の 3 月までとなっております。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。未納のみなさまへのご案内は順次お届けしておりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

なお、2 年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

年会費 一般：5,000 円／学生：3,000 円 (学生会員は初年度に限り無料となります)

送金先 【1】 ①郵便局で払込取扱票をご利用の場合

②ゆうちょ銀行の総合口座よりご送金の場合

→ ゆうちょ銀行 [振替口座] 00150-3-132873

【2】 ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合

→ ゆうちょ銀行〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 [当座口座] 0132873

日本英語教育史学会第 38 回全国大会 (オンライン) のご案内

先にメールでもご案内しておりますが、第 38 回全国大会を下記の通り開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

期 日：2022 年 5 月 14 日 (土)・15 日 (日)

会 場：Zoom を利用したオンライン開催

大会初日 (14 日) には、NHK テレビ英語会話の講師を 16 年 (1961~1977) にわたっておつとめになられた田崎清忠先生による下記のご講演を予定しております (タイトルは仮題です)。

「テレビ英語会話放送の歴史的経緯—内容、提示技法の開拓—」

講師：田崎清忠氏

(横浜国立大学名誉教授，元東京純心女子大学学長，

NPO 海外文化センター理事長，元 NHK テレビ英語会話講師)

◆ 研究発表について

大会での研究発表を募集いたします。研究発表希望者は、(1) お名前 (2) ご所属 (3) 連絡先メールアドレス (4) 発表題目 (仮題でも可としますが、できる限り確定版に近いもの) (5) 大会発表賞への参加の有無を明記のうえ、**3 月 11 日 (金)**までに電子メールでお申込みください。全国大会では積極的な採択が行われますので、どうぞ奮ってご応募ください。

メール送信先：大会実行委員会 taikai@hiset.jp

- ・研究発表は、プログラムで割り当てられた時間内に「リアルタイム」で行うものとします（事前に収録した発表動画の再生も可）。発表者入替え・質疑応答を含めて、発表時間は 30 分（発表 20 分、質疑応答 5 分目安）です。
- ・Zoom を利用したリアルタイムでの発表が困難な発表希望者は、大会実行委員会にご相談ください。
- ・研究発表をお申込みの方には、ご発表の内容を 1,000 字程度にまとめた要旨の作成をお願いいたします（4 月 8 日（金）必着）。

◆ 大会へのご参加について

- ・大会参加のお申込みは、研究例会と同様、オンラインで受け付けます。お申込みをいただいた皆様に、Zoom ミーティングの ID とパスコードを事務局から通知します。
- ・大会参加費は無料です。
- ・大会参加申込み用オンライン・フォームの URL を含む詳細につきましては、メール、および、次号会報にてお知らせいたします。
- ・大会プログラムにつきましては、次号の会報をお待ちください。

≫ この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 287 回研究例会 2022 年 3 月 19 日（土）オンライン開催

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要（100～200 字程度）、(4) 使用予定機器、の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日（7 月発表希望であれば 4 月 10 日） までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

日本英語教育史学会 第 287 回 研究例会

日 時： 2022 年 3 月 19 日（土）14:00～17:00

オンライン開催：詳細は学会ホームページをご参照ください（<http://hiset.jp/>）。

研究発表

「英千里編高校教科書研究—台湾と日本の繋がりとその背景にあるもの」

平井 清子（北里大学）

【概要】戦後 1962 年「課程標準」に準拠して英千里が編纂した高校英語教科書はその後の台湾

英語教育の基礎をなすものの一つといわれている。この『英氏高中英語』は当時としては珍しく日本文学が取り上げられている他、日本の教科書から直接引用した題材や日本と関連したものも多い。本研究では、この英千里編教科書の日本と関係した題材内容を中心に分析し、その特徴を捉え、当時の時代的背景と英千里の人物像からその要因を明らかにすることを試みる。

自著を語る

『私の歩み』(喜寿記念論文集)

山田昌宏 (本学会会員)

指定討論者：馬本勉 (県立広島大学)

【概要】「私の歩み」(喜寿記念論文集)には 42 編が掲載されているが、約 60 年間のそれぞれの時期に必要なに応じて取り組んだもので、いろいろな分野を含んでいる。それらすべてについて触れるのは不可能であり、今回は特に印象深かったテーマである教育機器、パソコン、授業分析、英語教育史等への取り組みの経緯を発表したいと思っている。

参加費： 無料

問合せ： 日本英語教育史学会例会担当 (reikai@hiset.jp)

◆研究例会はどなたでもご参加いただけます (予約不要)。

EDITOR'S BOX 今シーズンの秋田は例年より雪が多く、雪かきに追われることが多いです。／下の 2 枚の写真は大学のキャンパスで撮ったものですが、写真からわかるように、結構の量の雪があります (これでも減った方です)。／キャンパスに雪が積んであってもあまり問題はないのですが、道路にもこういう状態でカーブミラーに近い高さまで雪が積まれていることがあります。こういう状態だと、雪で視界が遮られるため、出会い頭の衝突などの交通事故のリスクが高まります。また車道自体は除雪されているので徐行していればそれほど怖くはないのですが、歩道は除雪されないことが多く、特に早朝や夜は凍って滑りやすくなります。私も子どもを迎えに行く時間が迫った時に焦って走ったら見事に転んでしまいました。／歩道で転ぶのを避けるためか車道を歩く人もいます。もちろんドライバーにとっては迷惑ですし、本人にとってもとても危険です。また雪が融けてくると水溜まりができて歩きにくくなります。悩みは尽きません。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 geppo@hiset.jp)

